

# リール大学・白百合女子大学共同セミナー

——『仮面の告白』を読む(1)——

竹 本 俊 雄  
井 上 隆 史

パンデミックの影響で留学はもちろん対面授業の実施も困難な状況が続いている。だが、逆に、国境を越えたセミナー、勉強会など、以前には考えられなかったことも、ズーム等を用いて行うことが出来るようになり、私たちは、数か月に一回のペースで、セミナーを開催することにした。ここに掲載するのは、2021年3月25日に行われたもので、参加した学生は次のようである(所属は開催時)。

リール大学(ロマンス スラヴ 東洋文化学部・日本学科)2年

マチルド・ヴァニエ Mathilde Vannier

ソリーヌ・リスカワ Soline Liskawa

白百合女子大学(文学部 国語国文学科)4年

谷口恵実

白百合女子大学大学院(文学研究科博士課程前期)2年

武井理紗

齋藤花琳

開催にあたっては、事前にズーム、メール等で数回準備を行った。

はじめての試みで、修正すべき課題は多いが、少しずつ形にしてゆきたいと考えている。

(竹本、井上記)

**井上** この企画は三島由紀夫についてフランスと日本の学生で自由に感想や意見を交換しながら、すぐに解決を出すのではなく、さまざまな考え方の交換、交流を深めていけたらいいなあというもので、数か月に一回のペースでしばらく続けられたらなと思っています。竹本先生、すみませんがちょっと通訳をお願いしても良いですか？

**竹本** Dans notre séminaire, l'enjeu est surtout d'échanger vos observations et vos impressions sur Mishima. Il s'agit moins de résoudre le problème tout de suite que d'apporter des solutions aux problèmes posés au fils du temps. Il y a des séminaires

une ou deux fois en plusieurs mois.

**井上** 有難うございます。日本から参加する学生を紹介しましょう。

**谷口** 谷口恵実です。卒業論文を『仮面の告白』で書きました。

**武井** 武井理紗です。修士課程を終え、博士課程で太宰治を研究する予定です。

**齋藤** 齋藤花琳です。修士課程を終え、春から高校の現代文の教師として働きます。太宰治、津島佑子を研究しました。

**竹本** Mademoiselle Taniguchi a rédigé un mémoire sur les *Confessions d'un masque*. Mademoiselle Takei est en fin de master. Elle travaille en particulier sur Dazai Osamu. Mademoiselle Saitō a validé son master qui portait sur Dazai et sur Tsushima Yūko. Elle va enseigner, à partir d'avril, la littérature japonaise au lycée.

**Mathilde** マチルドと申します。リール大学の二年生で日本語を勉強しています。一番好きな作家は村上春樹さんと三島由紀夫さん。小川糸さんにも憧れています。

**竹本** あなたは *Les amours interdites* 読んだんだよね。『禁色』ですね。

**Soline** Bonjour, je vais parler en français. Je m'appelle Soline Liskawa. Je suis étudiante en deuxième année de licence de japonais à Lille. J'ai découvert Mishima grâce à Monsieur Takemoto. Je me suis rendu compte que ma maman avait une grosse partie des livres de Mishima chez elle que je n'avais jamais vus avant. J'ai alors commencé à les lire. J'ai aussi étudié *Cinq nô modernes* sur la question du genre littéraire et du genre théâtral en cours d'anglais. C'était le sujet d'un dossier d'examen.

**竹本** ソリーヌは二年生で、三島由紀夫に興味をもって、家に帰ったら、それまで知らなかったんだけどお母さんが三島由紀夫の翻訳本を大量に持っていたとか。英語のクラスでは、文学ジャンル、演劇ジャンルの問題として、『近代能楽集』に取り組んだそうです。

**井上** 有難うございます。今回、まずは『仮面の告白』を一章ごとに読んでゆこうと思いますが、『仮面の告白』は皆さん読まれましたか？

**竹本** Mathilde, vous l'avez lu. Soline, est-ce que vous avez fini la lecture des *Confession d'un masque* ?

**Soline** Avec les cours, je suis presque à la fin, mais je n'ai pas complètement terminé.

**井上** だいたい読んでいただいた、という感じでしょうか。いくつか話題をこちらで用意したものもありますが、先にご意見や感想などあれば、お聞きしたいと思います。

**Soline** Ce qui m'a frappé avec Mishima, c'est la fascination et l'admiration de la mort ainsi que le côté pathétique des personnages……comme les martyres.

**竹本** 特に「仮面の告白」で印象強いのは、死の魅力あるいは死への憧れ。それから、神への殉教者のような人物……

**井上** やはり聖セバスチアンの描写は強烈ですね。

谷口 しかし、とても難しいです。

齋藤 『仮面の告白』というタイトルも矛盾というのか、よくわからないところがあって、仮面というものを使って、そもそも告白は成り立つのかどうか……。

武井 『仮面の告白』に限らず、三島由紀夫の表現する言葉や文章は、一文ずつが本当に深くて、考えれば考えるほど、人間の本质やこの世界の真理のようなものを同時に考えることに繋がり、論されているような感覚になります。例えば、『仮面の告白』の文章は、一文の中で正反対のことを言っている矛盾が度々見られますが、最初にドストエフスキー『カラマーゾフの兄弟』の一部を引用していて、「美の中では両方の岸が一つに出合って、すべての矛盾が一緒に住んでいるのだ」という箇所があります。それは『仮面の告白』全体にかかっていることで、例えば一章だと「根の母の悪意ある愛」という言いまわしがありますが、ここでは「悪意ある愛」という矛盾が見られます。しかし、この文章から、矛盾していることと、それは互いに同じであるということはイコールであると気付かされます。「根の母」は、大地＝母と捉え、「根の母の悪意ある愛」とは、母は命を与えると同時に、死という宿命をも手渡さなくてはならない存在であり、大地は命を与え、命が尽きたら還る場所として受け入れる。そのことは、宿命とはいえ悪意ある愛、悲哀であると解釈しました。そのように考えたら、人間、そしてこの世界はそもそも矛盾から始まるのであって、人間は答えが出なかつたり不透明な状態を不安に思うため一つに結論づけようとするけれど、矛盾していること同士が一つであるという真理のようなものを、この一文から私は教えられたように思います。

竹本 Mademoiselle Saitō interroge principalement le titre *Kamen no kokuhaku* qui annonce les paradoxes inhérents au roman. Déjà, elle se demande dans quelle mesure les confessions sont possibles ? Que signifie se confesser, surtout avec un masque ?

井上 主要なテーマはさきほどソリーヌさんに指摘していただいた通りと思います。一方、作品の構造や表題はもちろんですが、そもそも個々のイメージや語彙に関しても、難しいところが多いように思います。たとえば第一章で、糞尿汲取人が出て来ますね。これは、現代のフランスの読者がどんなふうに関心するのかわかりませんが、興味があります。

竹本 Soline a dégagé les thèmes importants du roman. Outre le titre et la structure, quels sont les mots et les images difficiles à saisir ? Par exemple, nous avons le personnage du vidangeur, l'objet du désir du narrateur. Est-ce qu'il y a un équivalent d'un vidangeur en France ? Comment les lecteurs français imaginent ce personnage ?

井上 糞尿汲取人を vidangeur と言うんですね。日本では、昔はそれは、どこにでもある日常的な風景でした。しかし、糞尿は大地の象徴だと『仮面の告白』にはありますし、ラカニアンのカトリーヌ・ミヨもその点を強調しますね。このような解釈について、皆さんはどう思われますか？

竹本 Le « collecteur d'excréments » est appelé « le vidangeur ». Au Japon d'antan, c'était banal : on le voyait partout. Il faisait vraiment partie des paysages quotidiens. À ce propos, le narrateur des *Confessions d'un masque* déclare que « les excréments

sont le symbole de la Terre. » Catherine Millot, psychanalyste lacanienne, insiste aussi sur ce point. Que pensez-vous d'une telle interprétation ?

**Mathilde** 正直、これをはじめて読んだとき、びっくりしました。フランスでは éboueur に近いと思って、普通のものなんですけど、汚い印象が強いです。魅力的な印象はフランスには全然ないと思います。だからびっくりしました。

**竹本** Soline, qu'est-ce que vous en pensez?

**Soline** Je ne suis pas non plus très convaincue par cette analyse.

**竹本** あんまり説得力がなかったって言っています。

**井上** 御神輿みたいなものは思い当たる？ フランスに、対応するものがありますか？

**竹本** Est-ce qu'en France, vous avez un équivalent au sanctuaire portatif ? Au Japon, c'est un objet qui est indispensable à une fête estivale.

**Soline** Il ne me semble pas qu'on ait un équivalent en France.

**竹本** Est-ce que vous pensez que la fête avec le sanctuaire portatif est comparable au carnaval que vous connaissez? カーニバルと神輿は似てるかどうか聞きました。

**Soline** Je ne pense pas vraiment que ce soit similaire, il n'y a pas d'aspect religieux

**竹本** 全く同じものだとは思わない。宗教的なものはカーニバルにはないと。面白いね。

**井上** (神輿の写真を見せる) こういうものですね。祭りで使う。神様の乗り物ですね。『仮面の告白』の第一章の最後に出て来ますが、神輿が暴力的に庭に押し入ってくるというのは、その暴力性と神聖性という意味において、第二章のセバスチャンの殉教のシーンの伏線になっています。そういう解釈というのは、フランスの読者にとっても成立するものなのでしょうか。

**竹本** D'après Monsieur Inoue, la scène du sanctuaire portatif annonce *Le Martyr de saint Sébastien*. Déjà, lorsque les jeunes hommes entrent dans le jardin du narrateur avec le sanctuaire portatif, il y a une violence. C'est-à-dire que Mishima associe la violence au sacré. C'est en ce sens que cette scène préfigure *Le Martyr de saint Sébastien*. Est-ce que vous, en tant que Françaises, vous avez senti ce dispositif narratif?……私もちょっとそれは考えなかったですね。なるほどね。

**井上** 第二章はいきなり性的な話になるわけですが、神輿の中に既に性的、そして暴力的なテーマがあるんですね。そういう点では、やはり三島は精神分析的なんでしょうね。

**竹本** でも、私も Millot を読みましてこれはちょっと違うんじゃないかなと思ひまして。フランスでもラカン理論を使う人はたくさんいるんですけど、結局結論がみんな同じになっちゃうんですね。三島自身が « les excréments sont le symbole de la Terre » と言ってますが、むしろギリシャ、ディオニュソスに由来すると考えた方がよいのではないか。Je me demande si la référence excrémentielle ne vient pas de la tradition grecque, surtout de Dionysos.

**井上** そうですね。あと、もう一つ。三島はもう中学生くらいから精神分析を読んでいて、ラカンではなくてフロイトですけどね。むしろ非常に意図的にそういうテーマを作

品で使っているというところもあります。そうすると、それを後から私たちが精神分析的に解釈しても、もともとそういう風に見えるわけだから、堂々巡りみたいになりますね。

**竹本** Collégien, Mishima connaissait la psychanalyse. Il lisait Freud et non pas Lacan, bien entendu. Parfois, il use des thèmes psychanalytiques de son plein gré. Alors, si nous interprétons Mishima à la lumière de la psychanalyse, nous entrons dans un cercle vicieux car il a écrit d'emblée en se référant à la psychanalyse.

Et alors, on peut se demander s'il ne joue pas avec quelques théories de la psychanalyse. Est-ce le cas des *Confessions d'un masque* ? Il y a un roman sur le cas freudien. C'est *La musique*.

**井上** そうですね、精神分析を扱った『音楽』という小説も三島は書いてますね。あれは翻訳はドミニク・パルメさんでしたね。

**竹本** そうですね。パルメさんの最初の三島作品の翻訳です。「これは凄い」、「フロイトをパロディにしてるわよ」と言って、あれでパルメさんは三島が好きになった。

**井上** パルメさんといえば、『仮面の告白』の新訳が話題になっていますが、ぜひお聞きしたいことがあります\*。「永いあいだ、私は自分が生れたときの光景を見たことがあると言いつ張っていた」という最初の一文の翻訳についてです。パルメさんはこう訳しますね。

Longtemps, j'ai soutenu que j'avais tout vu de la scène de ma naissance.

tout って入れますでしょ。これをフランス語で読まれた時に、皆さんどういう風に受け止められるのか。

**Mathilde** 意味が少し違ってくると思います。日本語には tout の意味が含まれていないと私は感じています。しかし、フランス語では tout があつた方が自然に聞こえます。だからパルメさんは、こんな風に翻訳したのだと思います。

**竹本** パルメさんは耳がすごく良い人なのね。だから、リズムとかメロディとかすごく気を使うんですよ。tout を入れて読むのと、tout を飛ばして読むのと、どっちが綺麗に聞こえるかな。ちょっと読んでみて、フランス語で。

**Mathilde** Longtemps, j'ai soutenu que j'avais tout vu de la scène de ma naissance. J'avais vu de la scène de ma naissance. やはり tout がある方が自然です。

**竹本** Quand on compare la traduction de Dominique avec l'ancienne, qu'en pensez-vous ?

**Soline** Dans l'ancienne, traduite de l'anglais, on n'a pas cette nuance de tout voir, mais de se rappeler des chose...

**井上** 古い訳は全然違うんですよ。

\* この点については「ドミニク・パルメさんに聞く——『夏』と『仮面の告白』の翻訳を通して」（聞き手・井上隆史、『中村真一郎手帖』2021年6月）参照。

Pendant de nombreuses années, j'ai soutenu que je pouvais me rappeler des choses vues à l'époque de ma naissance.

これは英訳からの直訳なんですね。英訳はウェザビーの訳ですが、

For many years I claimed I could remember things seen at the time of my own birth.

**竹本** 本当に直訳ですね。Est-ce que le mot « tout » en français a une signification précise ?

**Mathilde** C'est drôle. En fait, dans l'ancienne traduction, on est plus proche de la phrase originelle, donc du japonais. Mais dans la nouvelle phrase, le « tout » ajoute une nuance. Ainsi, cela me semble beaucoup plus clair et naturel.

**竹本** 面白いですね。旧訳の方が意味的には三島の文章に近いと思えるんですけど、新訳の方がリズムがいいしスーッと読めるのでイメージが立ち上がってくるし微妙なニュアンスもわかる。それに旧約よりクリアだって言ってますね。

**井上** ソリーヌさんもそういう考え方ですか？

**Soline** Je pense qu'on comprend très bien ce qu'a voulu faire passer Mishima en ajoutant le « tout ». Je pense que c'est encore plus clair. « Tout » en français peut à la fois désigner des objets concrets ou abstraits. Or ici, on n'a rien de concret. Il est vrai que la phrase de Mishima en japonais « mita koto », ne précise pas quoi que ce soit.

**竹本** なるほど。今面白いことを言いました。フランス語で tout という言葉は具体的なものにも抽象的なものにも使われると。そして、三島の言う「見たこと」というのは、確かにこれは経験ですけど、何の経験なのか具体的にわからない——、でもわからないからこそ tout という言葉は合ってるんじゃないかと。

**武井** 「すべて」と入れるのはパルメさんの解釈ですが、もし三島がどちらにも取れるように「すべて」も「一部」も入れていなかったとしたなら、はじめて『仮面の告白』を読む読者が、元々「すべて」という認識で読むことになってしまう。そのように考えると、「すべて」と入れずに忠実な訳のほうが良いと思いました。

**谷口** 私は日本語で考えて、「すべて」という言葉を入れたらどうなるだろうか、と考えた時、逆に範囲が限定されてしまい、読者の想像の幅を奪われるんじゃないかなという気がしました。そういう意味で、美しくないんじゃないかなという風に思ったんですけど、フランス語で tout を入れるとテンポがいいなら、それはそっちの方が良いのかなと思ったりもしました。

**井上** 「すべて」と言わない方が、読者の想像力の自由度が高まるというのは面白い指摘ですね。私がパルメさんに聞いたのは、tout が入ることによって、まず一つには、生まれた時の鹽の縁を見ただけじゃなくて「私」は何もかも見たんだという意味になる。私は、そこからさらに膨らませて考えたんですが、「私」が生まれた時以降の人生の全てを何か悟ったという風な含み、パルメさんはそうは言わなかったけど、そこまでは読めませんか？ それはもう文の解釈としてあり得ませんか？

**竹本** Je traduis. Le « tout » permet au lecteur de déployer librement son

imagination ; c'est une remarque intéressante. J'ai demandé à D. Palmé si ce mot impliquait non seulement que le narrateur-nourrisson a vu la scène de sa naissance mais aussi tout, absolument tout. De là, est-ce que vous pensez que le "tout" annonce l'avenir, voire la vie entière du narrateur, à savoir, la scène de la naissance, l'enfance et l'adolescence et ainsi de suite ? Est-ce que cette interprétation est possible ?

**Mathilde** Je pense que ça colle, parce qu'on voit tout au long du roman de Mishima qu'il a l'air de se souvenir des moindres détails. Dans ce cas-là, le « tout » marche vraiment bien. Ce mot peut être en rapport avec l'entièreté du livre.

**竹本** マチルドは、tout という言葉が『仮面の告白』の話者の幼年時代、少年時代、青年時代全てを示唆するという読みも可能ではないかという意見です。なぜかという、三島由紀夫の描写というのはすごく細かいので、本当に全てを記憶しているようだと。その意味では、この tout でもって予言をするという解釈もあり得るって言ってますね。

**Mathilde** Je pense que c'est un peu trop, mais je comprends quand même.

**竹本** ちょっと解釈のし過ぎじゃないかとも思うけど、そうも考えられるそうです。

**井上** 文法的にはあり得るのですか？

**竹本** Est-que c'est possible grammaticalement ?

**Mathilde** Je ne pense pas, mais plutôt dans le sens, oui.

**竹本** 文法的にはあり得ないけど、意味的にはあり得るって言ってますね。私も二人に聞きたいことがあるんです。Est-ce que vous sentez les effets sonores dans la traduction de Dominique Palmé?

« Longtemps j'ai soutenu que j'avais tout vu de la scène de ma naissance ».

Moi, j'entends l'assonance en OU, « soutenu » et « tout », et puis l'allitération en S et en T. Est-ce que vous les entendez ?

**Mathilde** Oui. Oui. J'entends bien.

**竹本** やっぱり音的な効果もあるんじゃないか、と聞いたんですけども、soutenu の /ou/ っていう音と tout の /ou/ っていう音が同じ音なんです。また /t/ という音が、longtemps の /t/ と同じで、同じ音を重ねることによって、強調するというテクニックが、詩の方であるんですよ。だからパルメさんはそれを使ったんじゃないかな。/s/ も、すごく出てきますね。パルメさんは、とにかく「リズムだ！ リズムだ！ リズムだ！」、「音楽を聴きなさい」って言ってますからね。

**井上** そうすると、原文に対する忠実さという点では、古い訳の方が良いかもしれないということになりますか？

**竹本** Qu'est-ce que vous en pensez ? L'ancienne traduction est-elle plus fidèle à la v. o. ?

**Mathilde** Je pense que c'est vraiment un choix de traduction, ou bien, on décide de rester fidèle à la phrase originale donc, comme l'ancienne traduction. C'est vraiment un choix de traduction. Ou bien, on décide de rester fidèle à la phrase originale

comme dans l'ancienne traduction, auquel cas ça fonctionne. Ou bien, on décide de faire passer un autre sens, un autre message. Auquel cas, la nouvelle traduction marche très bien aussi. Je voudrais juste rajouter quelque chose par rapport justement au sens dont on parlait tout à l'heure. Les mots donc, avec l'allitération, sonnent bien. On va dire intensifier ces éléments les plus importants de la phrase : « soutenu », « tout », « scène », « naissance ».

**竹本** マチルド曰く、翻訳者の選択の問題というか、結局形式と意味で言えば旧版の方が三島のテキストに近いんですけど、パルメさんの方が allitération の手法で子音を繰り返して本当に大切な語を強調している。その意味で三島のメッセージがはっきり出ているんですね。

**井上** それはフランス語をちゃんと耳で感じ取らないとわからないですね。

**竹本** 大事な言葉にストレスがかかるんですね。

**井上** もう一点、Longtemps という言葉から入ることによって、三島自身がブルーストを意識していたことがパルメ訳だとよくわかるということがあります。この点についてはいかがでしょうか。

**竹本** Est-ce que l'adverbe « longtemps » vous fait penser au début de « Combray » de Proust, c'est-à-dire « Longtemps, je me suis couché de bonne heure » ?

**Soline** On sait que Mishima, il me semble, lisait Proust. Peut-être que la traductrice en était consciente et a également été influencée par ce livre. Donc il y a peut-être un lien. Après, je ne dirais pas que c'est une copie ou du plagiat. Ça reste un adverbe très courant.

**竹本** 三島はブルーストの読者として知られていますよね。パルメさんの方でも、三島はブルーストを読んだという確信があって « longtemps » という語を使ったのではないですか？真似というわけではないけれど。この副詞は非常によく使われるものです、とソリーヌは言っていますね。

**武井** 「永いあひだ」という『仮面の告白』の冒頭は特徴的で、三島はブルーストを意識していたんだろうなと思います。その問題は、私小説と autofiction について考える時にも関係があると言えます。autofiction という定義は 1970 年代に入ってから生まれたようですが、それより前に『仮面の告白』は、autofiction の思想を体現していたと捉えることができます。『仮面の告白』は、真実の告白は不可能であるとして私小説を否定していますが、autofiction の手法で書くことによって、自伝と作り話を織り混ぜ、自身の経験や思想を語る一方で、虚構の中に自身を置く。その時、無意識下における、自身に内在していた本質が出てくる。そして、それと向き合うことによって、新たな自己の創造が可能になるようにも思います。

**竹本** autofiction については、2004 年に出た Vincent Colonna の *Autofiction & autres mythomanies littéraires* という本が評価が高いですね。文学を語る方法にはいろいろあって、その中で、自分自身を装飾してしまうことによって、自分の秘密や、告白しにく



い欲望をチラチラと見せるという方法、そういうものが、Autofiction の一つの定義です。

**井上** 日本ではフィリップ・フォレストという作家がよく知られていますね。

**竹本** 私は、フランスではむしろアニー・エルノーという作家を考えますね。それから、autobiographie fictive という考え方があって、そこにおいては、小説世界は主人公の視点から見られているので、描写にも主人公の感じたことが反映されて、非常に intimate な世界が作られる、というんです。プルーストの研究者の Anne Henry 教授が作った概念ですが、Pour vous, Mathilde, Soline, l'autofiction, ça veut dire quelque chose ? Ou bien, pas du tout ?

**Mathilde** Pour ma part, c'est la première fois que j'en entend parler.

**竹本** え？ はじめて聞いた？

**Mathilde** Mais ce n'est pas bizarre d'entendre ce mot même si c'est la première fois. Je comprends quand même le sens. Pour Mishima, l'autofiction s'applique plutôt bien.

**竹本** Est-ce que vous avez lu Annie Ernaux ?

**Mathilde** Non.

**竹本** D'accord. Autofiction という言葉は聞いたことがなかったんだけど、三島には、というのは『仮面の告白』には、ということですが、合うんじゃないか、と言ってますね。Soline, qu'en pensez-vous ?

**Soline** Quant aux *Confessions d'un masque*, au début, je pensais aussi que c'était plutôt un livre d'introspection. Cependant, je n'avais pas du tout cette idée d'autofiction. Finalement, j'ai l'impression que c'est un mélange des deux, l'autofiction et l'introspection.

**竹本** ソリーヌ曰く、最初は主人公が内面を描いた小説はないかと思っていたのだけれど、どちらかというと autofiction という形式と自分の内側を覗いて語ることが一緒になっているのが『仮面の告白』ではないか。

**武井** 日本では autofiction という手法が広まっていないので、『仮面の告白』や太宰治『人間失格』も私小説という枠で認識されることもあります。私はどちらも autofiction なのではないかと。両者の主人公は、胸の内を告白するという体裁はとっているように見えても、それは形式であって、作者が意図的に主人公を操作している、或いは読者への印象操作も含まれています。

**井上** 日本の近代小説史においては、私小説というジャンルが一般的で、そこでは主人公や語り手と作者が一致していて、作者は自分の体験を事実として述べているという前提で書かれ、読まれています。しかしこれは、そういう形をとったフィクションなんです。イルメラ・日地谷＝キルシュネライトさんも、確かそういう議論をしていました。『仮面の告白』という作品の文学史上の意義は、日本で根強い人気のある私小説というジャンルは、実は作者が自分の体験した事実を正直に書くという決まり事の上に成り立ったフィクションなんだということを、アイロニカルに証明したところにある。一方、

autobiographie fictive や autofiction という考え方に、フィクションであることによって、より深く作者の考えるテーマが展開できるという発想が含まれているなら、これは『仮面の告白』論に応用できると思いました。

**竹本** Je traduis. Monsieur Inoue situe les *Confessions d'un masque* par rapport au « roman du je / *Shishōsetsu* ». Il y a un pacte de lecture entre l'auteur et le lecteur, c'est-à-dire que le « je », auteur du *Shishōsetsu*, est censé décrire la vérité de sa vie, à savoir tout ce qui se passe autour de lui. Mais n'est-ce pas une sorte de fiction ? C'est une polémique qui revient souvent. Par exemple, Mme. Irmera Hijiya Kirschneret confirme que c'est malgré tout une fiction, fondée sur le pacte entre les lecteurs et l'auteur. L'importance des *Confessions d'un masque* dans l'histoire littéraire est la suivante : Mishima prouve ironiquement que « le roman du je », ancré dans la littérature japonaise, est une fiction, fidèle à la règle suivante : l'auteur doit relater honnêtement sa propre expérience. Mais que signifie écrire sur son vécu ? Ce faisant, si Mishima se donne quelques attributs fictifs, l'autofiction peut être un outil d'analyse intéressant.

**井上** 有難うございます。キルシュネライトさんだけでなく、海外の研究者のほうが、こういう問題に意識的ですね。

**竹本** アンヌ・バヤール・坂井教授が、とても示唆的な言い方だと思うんですが、confession déguisée、偽装された告白、と言っているんですね。

**井上** confession というものの意味合いが、日本人における場合と、カトリックの世界では違うということもありますよね。カトリックの世界で、confession déguisée なんていう考え方は、何と言うのか、許されるんですか？

**竹本** これはね、確かに嫌がられるんですね。

**井上** そうしますと、そもそも『仮面の告白』というタイトル自体が、宗教的なアイロニーを意味しますか？

**竹本** Est ce que vous sentez quelque chose de religieux dans le titre des *Confessions d'un masque* ?

**Mathilde** Personnellement non. Si c'était il y a longtemps, on aurait pu comprendre effectivement que la confession en France a un sens religieux, mais plus maintenant.

**Soline** Je peux voir ce côté religieux dans la confession. On va dire qu'à l'époque, l'onanisme, terme religieux provenant du crime d'Onan dans *La Genèse* et désignant la masturbation était un acte sévèrement condamné par la religion. C'était aussi une souffrance pour le personnage des *Confessions d'un masque* et on a l'impression qu'il « expie » un peu ses péchés, sa faute de l'onanisme. J'ai un peu cette impression-là, avec la forte présence de la religion et du martyr aussi.

**竹本** マチルドは昔ならとにかく、今ではフランスでは宗教的な感覚はないと言ってるんですけど、ソリーヌは自瀆というキリスト教が禁じた罪を描き、そして聖セバスチャ

ンとの結びつきという点で、宗教的なニュアンスが出るんじゃないか、と言っていますね。Si vous avez quelque chose à dire, allez-y, c'est une occasion.

**Mathilde** J'aurais aimé que l'on s'attarde un peu plus sur les points communs entre Mishima et Proust, puisque j'avais fait quelques recherches, et j'ai trouvé certains points communs.

**竹本** そろそろ時間ですが、プルーストと三島との共通点について少し調べたので、それについて話したいと。

**Mathilde** Je peux le faire en japonais. 三島にとってもプルーストにとっても、大切な部分を理解するには、描写、説明を、事細かく読まなければならないと思います。また、感覚と記憶の繋がりが強いと思いました。そして、二人とも人生のパターンはそっくりです。病弱で、自分に自信がなくて、死ぬ前に自分の人生を語りました。

**井上** 本当にその通りですね。記憶というのは非常に重要なテーマだと思います。ただ、プルーストにとっては記憶が再現されるんですけど、『豊饒の海』のラストでは記憶が無くなるんですね。その点では、同じテーマから発しているながら、方向はむしろ反対かもしれませんね。これは、三島だけの問題ではないと思います。というのは、アウシュビッツのような極めてトラウマ的な体験をした人類にとって、20世紀のある時期以降、記憶の意味がプルーストの頃とは根底から変わってしまった。そのことと、三島による記憶の扱い方とは関係があると思うんです。

**竹本** とても大きなテーマですね。Attendez, je traduis, parce que c'est important. Chez Proust, le souvenir permet de faire ressurgir le monde perdu, c'est le cas de la petite madeleine, ou bien, de l'intermittence du cœur par exemple. Mais chez Mishima, surtout, dans la tétralogie qui commence par *Neige de printemps*, et qui finit par *L'Ange en décomposition*, plus le roman avance, moins le souvenir devient net, à tel point qu'à la fin, le sens du souvenir disparaît complètement. Le souvenir préservé renvoie à l'absence. Comment peut-on expliquer ce changement ? D'après Monsieur Inoue, c'est la *Shoah*, l'extermination du peuple juif. Dès lors, le sens de mémoire change radicalement, d'où la différence de traitement du souvenir entre Proust et Mishima.

**井上** このようなテーマについても、また話し合ってお考えを聞かせていただけたら有難いです。今日は、手探りの状態でしたが、とても勉強になりました。次回を楽しみにしています。

(リール大学准教授〔竹本〕／本学教授〔井上〕)